



## 学習発表会

【小・中・高等学校を中心とした学校・家庭・地域の連携による学習発表会】

### (1) 学習発表会の概要

喫煙・飲酒・薬物乱用には、社会的環境要因の影響が大きく、その防止にあたっては、個人の努力だけでは解決できない課題も多い。

そのため、学校ができることとして、家庭と地域と学校との連携による喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の必要性を感じ、平塚市立南原小学校、中原中学校、県立平塚農業高等学校を研究校とし、3校を中心とした取組みを行った。

はじめに地域の小学校・中学校・高等学校で地域連携という学校組織作りをし、その中で学校、家庭、地域が喫煙・飲酒・薬物乱用防止について、どのように取り組むかを考え、その成果として大人と子どもがいっしょに考える学習発表会を試みた。

#### ア．ねらい

喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育を実践する上で地域と学校とのコミュニケーションを図り、小学生・中学生・高校生が喫煙・飲酒・薬物乱用について学習してきたことを発表し、子どもの考え方や大人の考え方について話しを聞き、防止教育のはじめの一歩とする。

#### イ．目 標

(ア) 喫煙・飲酒・薬物乱用の低年齢化の傾向に対応して、緊急に取り組むべき健康課題として学校と家庭、地域の連携を図る。

(イ) 児童生徒が自ら考え、自分の意志で判断し、正しく行動できるきっかけにする。

(ウ) 学習発表会に集まった方々の出会いを大切に、今後のつながりの輪にする。

#### ウ．日時の設定

南原小学校・中原中学校・平塚農業高等学校がお互いの学校行事や地域の方々に来ていただける期日と曜日を慎重に検討した結果、3月上旬の日曜日の午前に学習発表会を開催することとなった。

#### エ．会場の検討

会場については、地域の方々が集まりやすい場所であることや、駐車場や会場等の諸費用を検討し、学校に決まった。

#### オ．広報活動の方法

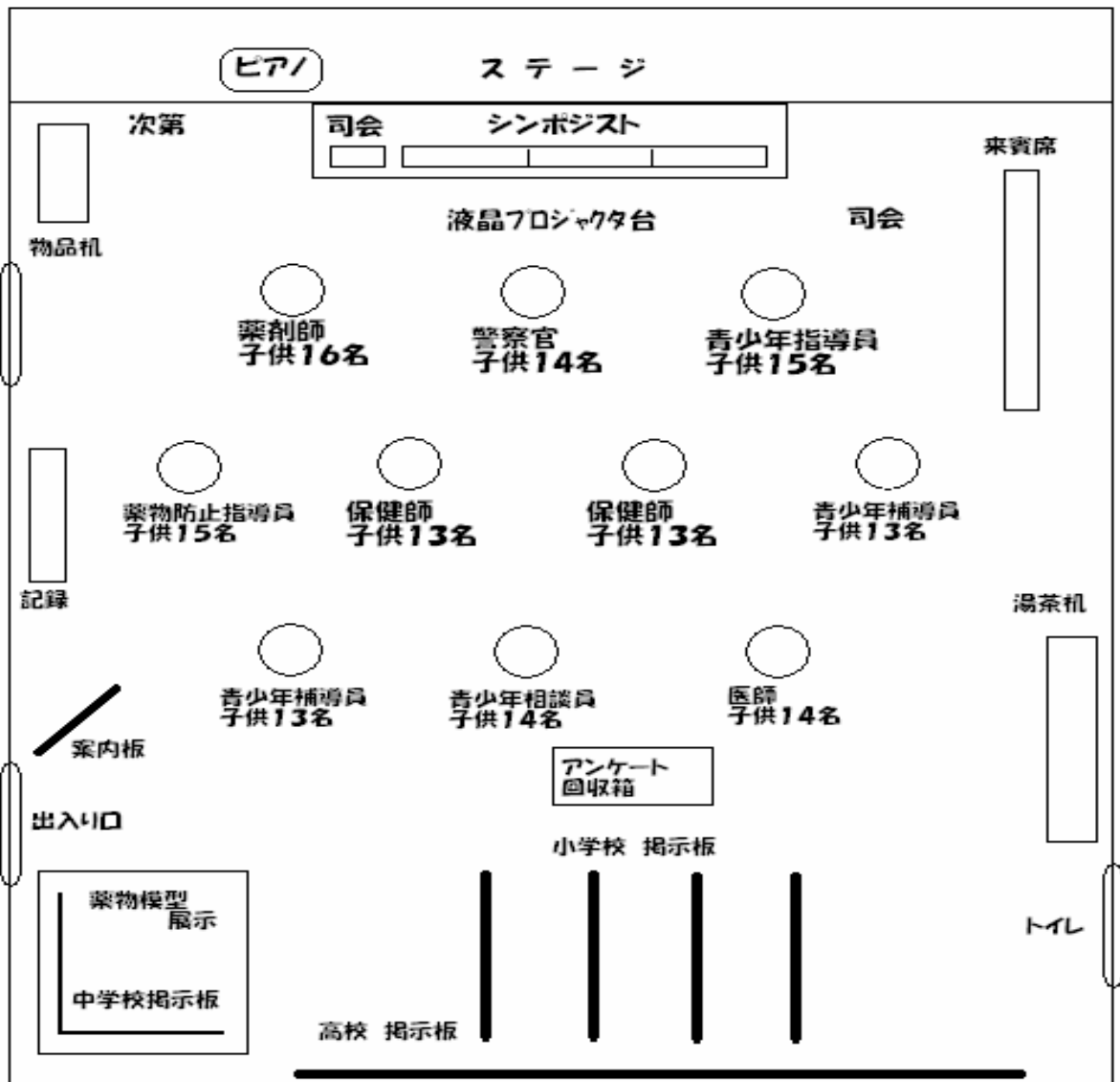
各学校（県内の小学校・中学校・高等学校あて）からの配布  
中原地区の「自治会だより」、平塚市の広報、「県のたより」

#### カ．発表会の会場図と工夫点

##### (ア) 会場の工夫

一般的に、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の発表会は、薬物の恐ろしさに気づき事件・事故の悲惨さを感じて、会場の雰囲気は暗くなりがちで、発表会後に悲しい気持ちになる場合が多い。今回の発表会では、会場にきている方々の雰囲気をできるだけ暖かいものにし、薬物から青少年をみんなで守るという人と人との心のつながりに重点をおいて会場設営を企画した。

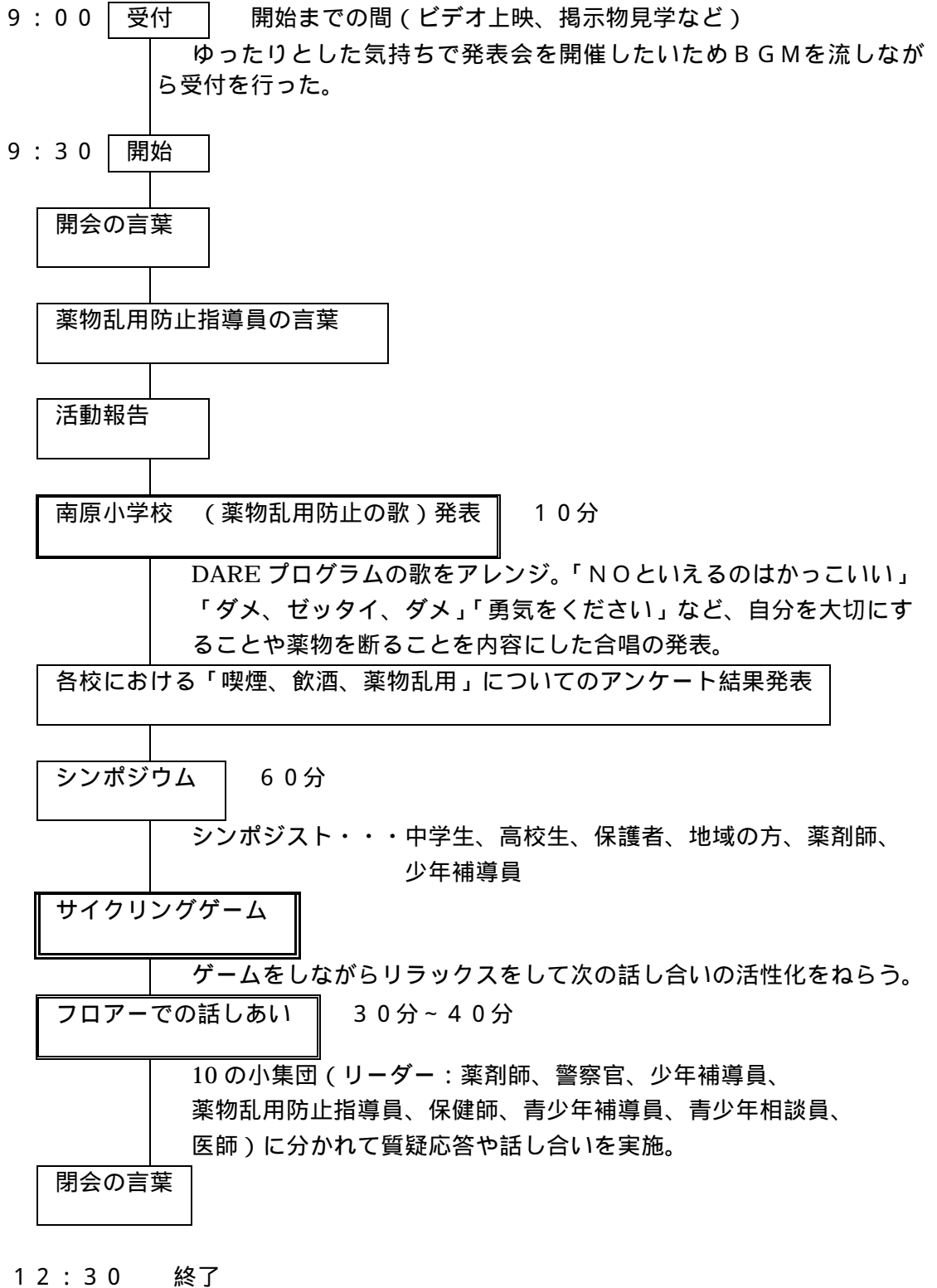
(イ) 会場図



キ. 学習発表会次第

日時・場所 3月上旬(日)・中学校体育館

発表時間 約3時間



## (2) 「薬物乱用防止の歌」について

児童が、自ら考え、自らの意志で判断し、正しく行動する実践的能力を身につける一助として、南原小学校では、DAREプログラムの一部である喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌の発表に取り組んだ。

DAREとは、1983年に米国ロサンゼルス警察の健康教育の専門家達によって開発された Drug Abuse Resistance Educationプログラムである。このプログラムは、青少年の薬物乱用及び暴力を防止することに焦点をあてたスキル教育プログラムである。指導者は、学区の警察官と各学校の教師が担当するのである。(出典・野津有司研究室)

南原小学校の6年生の児童が取り組んだDAREは、筑波大学の野津有司研究室で開発中のものである「DARE」の中の歌である。DAREの歌は10曲からなり、原曲は、英語で歌われているため、野津研究室で日本語に翻訳された。それを南原小学校で、小学生「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育」の新しい教育の試みとして実践した。

この10曲からなる歌の内容は、薬物に手を出さないための誓いから始まり、誘われたときに「ノー」と言える勇気や危険の状況からの逃れ方、たばこやお酒など薬物にゼツタイ手を出さない固い意志、迷ったときや悩んだときの対処の仕方、信じられる強い心と勇気をもって毅然と立ち向かっていける自信などの内容で構成されている。

### ア 喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌を小学校で取り組むにあたって

小学校・中学校・高校と連携する中で、喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌を小・中・高のどこで取り組むべきかが話し合われた。年齢的に喫煙や飲酒の入り口になりやすい中学校で指導すべきか。それとも高校が良いのか。

その結果、社会的に色々な問題行動が低年齢化していく現状の中、この平塚でも中学校では遅く、小学校での指導がより効果的であり、必要ではないか、小学校で喫煙・飲酒・薬物乱用防止を積極的に取り組むことが、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する高い予防効果を生むであろうということ、小学校で取り組むことになった。

### イ 歌を歌って喫煙・飲酒・薬物乱用防止になるの？

DAREのプログラムには、歌と「17のレッスン」がある。しかし、研究校では、平成13年度に「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の年間指導計画」を作成しており、平成14年度から実践・検証する予定になっていたため、前年度に作成した年間指導計画を「17のレッスン」の代わりに利用し、喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌に取り組んだ。

### ウ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育年間指導計画について

喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育年間指導計画は、小学校・中学校・高校の3校で連携して、この地域の子供達に焦点をあて、「善悪の判断・自尊感情・生命尊重」の3項目を中心にすえて作成したものである。

この指導計画を作成するにあたっては、1年生から6年生までの全教科を対象に「喫煙・飲酒・薬物乱用防止」の学習が出来そうな教科や単元を洗い出した。

次に、洗い出された全学年の教科や単元の傾向を把握したうえで、3教科(保健体育・道徳・特活)にしぼって、指導内容を検討した。また、他教科や時間数に無理がでないように、年間3時間(3年生以上)を確保する学習計画作成した。また、図工で「ポスター」の単元に取り組むときは、『喫煙・飲酒・薬物の乱用防止』のテーマも含めるように計画した。

### エ 歌について

DAREの歌は10曲ある。その10曲の中から、ラップや独唱などを除き、児童が取り組みそう

で、かつ児童が自分の物としていけそうな6曲を選んだ。

当初の予定では、歌は3曲と考えたが、3曲歌えるようになると、何か物足りなさを感じた。なぜなら、喫煙・飲酒・薬物はやらないと誓ったり、否定するばかりである。そこで張りつめた心をやさしく癒し、自分が見つけれそうな歌「8.話そう!」「9.ほんとうの強さがほしい」の2曲を取り入れた。前半は否定することで一杯意気ごみ、そして後半は張りつめた心をやさしく癒す。このような意図に基づき、6曲を、DAREの10曲の中より選んだ。曲名は、下記の6曲である。

#### 喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌

(1) Forever Free

(2) ワン ツウ スリー

(2) アブナイ!ゼッタイ!ダメ!

(4) 話そう!

(5) ほんとうの強さがほしい

(6) フォーエバーフリー

#### オ 歌の練習を通して

曲を選ぶにあたっては、日本語の楽譜になっていなかったため、原曲の歌を聴き、日本語に訳された詩を見ながら、児童が歌えるように曲と詩を合わせて、楽譜に仕上げた。

練習していく過程で歌いにくいところは直したり、児童の意見を取り入れ、改善していった。

「(3) アブナイ!ゼッタイ!ダメ!」の曲については、近い将来、出会いそうな「たばこ」と「お酒」に焦点をあてて、警告的に作り上げた。また、練習を積み重ねていくうちに2番の歌詞も、「シンナー」に直そうということになった。

また、「ダメ」「ダメ」という言葉の使い方も、「ダメ ダメ ダメ ダメ」と4回の繰り返しにした方が否定を強めるというので変更した。「アブナイ!ゼッタイ!ダメ!」のかけ声については、ただ2回繰り返すのではなく、言葉の語調が高まるように、順番を変えて言ったり、言葉を繰り返して言うなど工夫した。

#### カ 歌の中のセリフについて

歌を歌う前に必ずセリフがある。一斉に言うところ、掛け合いで言うところ、独り言のように言うところ等、様々な場面がある。その時々で、心の想いが表現できるように言葉の練習をした。

自分たちの立場、こんな場面に遭遇したら等、まさにロールプレイングが入り混じったセリフである。今、小学生がおかれている状況そのままに、大好きなサッカーやバスケット、楽しんでいるゲームやテレビ。また、子ども達が自然に受け入れていた周りの状況等を含めてセリフ作りをした。言葉から心の想いを想定するには、その立場や状況に身を置かないと、そのセリフが上手に言えない。セリフを覚え、心が表現できるように、話し合いながら進めた。

#### キ 服装について

喫煙・飲酒・薬物等、人間の身体にとって害のあるものを悪としたら、それを表現するには黒が良いと考えた。その黒く覆われたものの誘いから、決別を宣言し、自分を信じ、自分に誓い、自分の道を探し出すということで、黒い衣装にした。児童の持っているTシャツや黒いセーター、黒いトレーナーなど黒い上着を用意し、細いビニールテープで胸にDAREと貼り付けた。しかし、ビニールテープは毛糸や布ではとれやすく、家庭科での裁縫を生かし、各々、針と糸で縫いつけた。

発表会の前に全校児童の前で歌ったときは、カラフルな服装だったが、黒い服装で統一した方が、

雰囲気は2倍・3倍に盛り上がり、視覚的な効果を感じた。

#### ク 振り付けについて

歌やセリフが殆ど言えるようになったとき、歌う姿勢はどうするかと話し合った。そこで6曲の中から、自分がやりたいと思う曲の振り付けを考えさせた。児童は曲に合わせ、思い思いの振り付けをグループで考え、仕上がったら全体に発表し、皆に認められると、全体に教え、互いの振り付けをマスターした。振り付けは全員で作り、全員で覚えた。

#### ケ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止の学習を通して

##### (ア) 保健学習を通して

小学生にとって喫煙・飲酒・薬物が悪いものであることは、学習する以前から誰もが漠然と知っている。しかし、それがどうしていけないのかということは、分からない児童が殆どであった。

そこで、本校で作った喫煙・飲酒・薬物乱用防止の年間指導計画をもとに、保健体育や道徳・特活の学習で「なぜいけないのか」ということを学習した。

例えば、保健学習「子どもは、お酒を飲んではいけないの？」の授業で、アルコールの害について、レバー実験を通して視覚に訴える形で授業した。その授業でいけない、怖い、体に悪いということは理解できたものの、現実の児童の生活の中へは、なかなか浸透していかない。

例えば、中学生や高校生がたばこやお酒をやってはいけないと頭で分かっているにもかかわらず、目にするものが多くなると次第にいけないと思う心が自然に麻痺してくる。そして、「みんなやっているのだからやっても良いのかもしてない。」「そんなに悪いことでもないのかもしれない。」と誤解してしまっている児童もいる。大人でさえ、そういうことに無関心になり、目を向けなくなってしまっている現状がある。学習したことは、知識としてのみ理解されている傾向もある。

ところが、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌」を歌ったことにより、児童の中に異変が起きてきた。学習した知識が、プレイバックし現在進行形の形で、児童の感想にも変化が現れてきた。

##### (イ) 歌や言葉(台詞)の効果

喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌を練習していて、発見したことは、毎日のように歌を歌い、声を出して台詞を言っているうちに、知らず知らず、喫煙・飲酒・薬物について真正面から向き合うことになっていった。台詞を練習したことが、喫煙・飲酒・薬物に対する気持ちの変化を起こさせ、悪いことは悪いと考えられ、いけないことはいけないと言えるようになってきたことは間違いない。また、台詞を言う為には、言葉に見合う状況や感情が想定される。魅力ある言葉(台詞)にするには、状況や感情抜きには考えられない。「たかが歌、たかがセリフ」と思っていたが、練習を積み重ねていくうちに、確実に言葉に見合った感情や想いが湧きあがっていった。練習後にこの歌を歌った感想を書いてもらうと、

**感想**「最初は、歌を歌ったところでどうにもならないと思っていたけれど、私のお酒やたばこに対する考えが少し変わったと思います。お酒やたばこは、結構身近にある物なので、使っても、多分大丈夫だと思っていたけれど、薬物防止教育や歌を歌ってから、絶対に使ってはいけないと思ってきました。これからは頑張ってやっていきたいと思います。」と、このような感想が多く見られた。

##### (ウ) 日常生活での変化

初めは、単なる歌として受け止めていた児童は、歌ったところで、何も変わらないと思っていたが、次第に保健体育などで学習した知識が、児童の心の中にグーンと広がり、3ヶ月後には、「喫煙・飲酒・薬物は、絶対にやってはいけない。」と、学習が歌の裏付けとなっていった。歌を歌うことは、日常生活でも少しずつ意識の変化を起こしていった。児童は、喫煙・飲酒のこ

わさを家族に話したり、たばこ吸ったり、お酒を飲んでいる家族を注意するなど、家庭での対話も多くなったようである。

また、学校生活でもこんなことがあった。歌を練習仕始めていた時に、急病で教頭先生が入院された。それを聞いた児童は、励ましの手紙を書いた。驚いたことに手紙の文面は喫煙の害を訴え、禁煙を勧める手紙になっていた。理屈でなく、無意識にたばこは身体に悪い、禁煙をすべきだと歌を通して、感じているようであった。

**手紙** 「前略、6年生のみなさん励ましのお手紙ありがとうございました。とても嬉しく思いました。突然の入院でさぞ驚かれたことと思っています。(中略)多くの人がたばこの心配をしてくれていましたが、たばこは11月30日でやめました。ご安心下さい。(後略)」

#### (エ) 中学校での歌の発表会

小学校6年生にとって、中学校は憧れや期待を持っている反面、未知なる、不安でこわい場所でもある。中学校で「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の発表会」を行うと聞いた小学生は驚いた。

未知なる学校で歌を発表することは、児童にとって大きなプレッシャーとなっていた。

発表会数日前に部活見学会の連絡がきた。初めて訪問する中学校に児童は緊張していた。そこで、部活見学終了後に、発表会の会場の確認とリハーサルをかねて体育館ステージで、一曲歌わせてもらった。しかし、部活の終わった中学生に見られての歌はかなり緊張して、普段の賑やかな6年生が「借りてきた猫」状態であった。

喫煙・飲酒・薬物乱用防止発表会の当日は、最初に歌を歌い、大きな拍手を受けた。その後のシンポジウムや話し合いを持ったことで、中学校や中学生に慣れ、また、中学校の先生にもお会いすることもできた。その結果、児童の中学校に対する不安は薄れ、むしろ期待に胸ふくらませ中学校に進学していくことができた。これは、3校合同発表会の思わぬ効用である。

#### (オ) 卒業式での薬物防止の歌

卒業式に行く「別れの言葉」の中に、今年度、6年生が取り組んだ「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌」を一曲入れたいとの希望で「ほんとうの強さがほしい」の曲を入れることにした。

自分の力でしっかり歩いていくという内容は、まさに門出にぴったりの歌だった。この歌は、児童の心をつかみ、児童自らの心の歌となっていくようである。

#### (カ) 歌を通しての効果

歌を学習して、自分たちは、絶対、薬物はやらないという雰囲気は児童の中に感じられ、喫煙・飲酒・薬物に手を出さないと言う気構えが出来たと思われる。なぜなら、子どもの感想の中に自分の決心や覚悟と言ったものが多く見られた。

**感想** 「この勉強をして、前に思っていた以上に薬物って怖いなあー。やめられなくなるんだー。と思い薬物は絶対使わないといいきれます。たばこか薬物とか、歌と同じで、『その先には、何も無い』って歌どおりだなー。と思いました。」

**感想** 「ぼくは、2学期にDAREをやるまで、酒やたばこや薬物は自分のためにいけないことだから、悪いと思っていました。でも、DAREをやって周りの友だちや家族にも迷惑が掛かってしまうことがわかりました。自分の身体のこと大切だけど、周りの人のためにも薬物などをやらないようにしたいです。」

#### (キ) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育学習発表会を通して

学習発表会では、地域や父母・中学生や高校生など、多くの人と知り合うことができた。例えば、本来なら病気にでもならなければ医師と話す機会はないが、発表会では、色々なことを話し合うことができた。医師だけでなく少年補導員や少年指導員・薬剤師・保健師・薬物指導員・

警察官など、今まで知り合うことがなかった色々な職種の人と出会え、色々な話を聞いた。この事は、たいへん意義深かった。また、児童の歌を出席した多くの人に聞いてもらい、褒めてもらったり、認めてもらったりしたことは、児童の大きな自信にもなった。

児童が歌を歌うことで、話し合いのきっかけが生まれ、固く暗い内容の話しも、やさしく柔らかかな和んだ雰囲気話し合うことができた。防止教育が誰からも受け入れられるものであり、身近な挨拶から広がっていけるために、このような発表会が継続的にできると良いと思われる。

#### (ク) 大人たちへの影響

児童が心を込め、自分の言葉で喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌を歌ったことにより、本来は歌っている児童への教育であったのだが、歌を聴き、歌に感動した大人たちや、練習を通して、見聞きした父母など、たばこをやめたり、またやめようと決心したりしている姿が見られた。

小学校の職員の中にも、これを機に禁煙をされる先生が出てくるなど、児童だけでなく児童を取り巻く大勢の人に影響を与えるきっかけになったようである。

#### (ケ) 終わりに

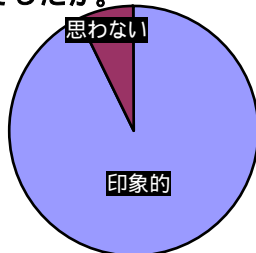
10月末より始めた「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌」の練習は、忙しい卒業時期とぶつかり、かなりきついものがあった。

初めは、歌を歌いながらなかった児童や変声期とぶつかり声がでない児童など、歌わせることが大変であった。しかし、次第に歌やセリフに引き込まれていき、だんだん心ひとつに歌えるようになった。発表会終了後のアンケート結果にもあるが、児童のほとんどが歌を学習して良かったと感じている。「たばこやお酒、薬物の恐ろしさを知り、絶対にやってはいけない、やらないと思った。薬物に誘われてもノーと言えると思うし、誰か友だちが勧められていたら、注意してあげようと思った。歌を歌って緊張したが『良かった』と言ってもらえて嬉しかった。歌を聞いてくれた人にも薬物の恐ろしさが伝わったように思うので、禁煙をしたり飲酒や薬物を乱用する人がすくなくなってくると良いなと思った。」と感想に書いていた。また、発表会には100%に近い保護者の参加を得て、防止教育について話し合うことができた。

歌だけでなく、薬物乱用防止カルタやトランプを作って、クラスで遊んだり、下の学年と遊ぶこともでき、楽しんで学習することができた。

あと数ヶ月で中学生になる児童にとって、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌」を練習したことは、将来出会うであろう、たばこや酒そして薬物などに対する大きな警笛になったことは間違いないと確信する。これらの学習が、彼ら・彼女らが背負う輝く未来への、大きなプレゼントになることと固く信じている。

学習発表会での喫煙・飲酒・薬物乱用問題防止をテーマとした小学生の歌はあなたにとって印象的でしたか。



参加者の92%が印象的でしたと答えています。感想の項目からも、「小学生が喫煙・飲酒・薬物乱用を防止するためのPR方法として、喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌はたいへん効果的で、大人が喫煙・飲酒・薬物乱用問題についての重大さを、理解しやすい取り組みでした」との感想が多くありました。



### 1. Forever Free

歌の前のセリフ

私たちがは、永遠に薬物を使わないと誓います  
それは、私が健康で幸せでありたいから、  
お酒もたばこも、薬物もちゃんと断ります。  
それは、自分を大切にしたいから。」

- (1) フォーエバ - フリー あしたにいまちかーうよー  
さあまえを(まえを)むいて(むいて)つよく(つよく)  
なろう(なろう)ゆうき(ゆうき)だして(だして)  
くじけはしーないさー

歌の中のセリフ

そう、ぼくたちに お酒やたばこはいら  
これからもずっと変わらない。もう迷わない。  
決して流されない。」

- (2) ぜったい まけない プレッシャーにもー  
ひとりじゃー ないんだー たち む かおうー  
さあまえを(まえを)むいて(むいて)つよく(つよく)  
なろう(なろう)ゆうき(ゆうき)だして(だして)  
くじけはしーないさー  
じゃまできない(じゃま でき ない)だれにもー  
フォーエバ - フリーおもいをー つな げーようよ  
ひとみは かがやき つづ ける だろうー  
さあまえを(まえを)むいて(むいて)つよく(つよく)  
なろう(なろう)ゆうき(ゆうき)だして(だして)  
くじけはしーない さーい つ ま で も ー

### 3. アブナイ! ゼツタイ! ダメ!

前のセリフ

興味あるな。1回くらいいいよね?ただのビールでしょ。  
問題あるの?違法だろ! たばこをすうのって、本当に  
落ち着いた人のように見える?やめたくになったら  
やめるから大丈夫。いつもテレビで、みんながやっている  
ことでしょ。大人になった気分。  
もっと速く走れるかな?頭を良くするかな?  
私は、ゼツタイ やらないよ!

あぶない ぜったい だめ  
だめ ぜったい だめ

- (1) たばこ たばこ すいたいよ だめ だめ だめ だめ  
おさけ おさけ のみたいよ だめ だめ だめ だめ  
そのさ きに はー なにも ないー  
こわ さ ない でー きみ のあした を

あぶない ぜったい だめ  
だめ ぜったい だめ

- (2) シンナーたぶん いちどだけ だめ だめ だめ だめ  
だっていっしょうつづけないだめ だめ だめ だめ  
そのさ きに はー なにも ないー  
こわ さ ない でー きみ のあした を  
そのさ きに はー なにも ないー  
こわ さ ない でー きみ のあした を

あぶない ぜったい だめ  
あぶない ぜったい だめ  
だめ ぜったい だめ だめ!

### 2. ワン - ツウ - スリー

歌う前のセリフ

仲間にはいるのは簡単。断ると、バカにされそう  
じゃあ、たばこを吸うのは かつこいいことなの?  
ダメだ。たばこを吸うのは 弱虫だ。  
お酒やたばこは、あなたを だめにする。  
ノーって言えるのは、かつこいい。かつこいい。

- (1) ワン ツー スリーで い おう よー  
やくぶつ なーんて いらな  
ワン ツー スリーで い おう よー  
ゆうきを だしたら いえるさー

歌の中のセリフ

1 友だちに誘われたら何でもきいてあげる?  
2 それが、良くないことだったら、断らなくちゃ  
3 いっしょに別のことをやろうとしてみるよ。」

- (2) ねえー いっしょにー  
さあ ワン ツー スリーで い おう よー  
にげてば かーりじゃ かわらな  
ワン ツー スリーで い おう よー  
かつこ わ るい こーとじゃ なーいよー

歌の中のセリフ

1 薬物ってカッコイイものなのかな?  
2 イヤだ、私はもっと良いことをしたい。  
3 ゲームしたり、公園に遊びに行ったりしようよ  
ぼくたちは じ ゆ う さー  
わたしたちは ま け ないー  
やくぶつは いら ないー  
ワン ツー スリーで NO(ノー)

### 4. 話そう!

前のセリフ

ときどき、どうしてこんなにたくさん悩みがあるのかと思う。  
いい子でいるのは、とてもプレッシャーを感じる。  
ときには、いやになってやめてしまいたくなる。  
家族とどんな風に話せばいいのかわからない。  
誰も分かってくれないと思う。  
物じゃなくて、誰かに自分を向けようよ!  
誰に向ければいいの?」

おしゃべり

- (1) はなそう! ころとじなーいで ころではなそう!  
えが おをー みー せてー  
ほら  
はなそう! (だい じょうぶ) はなそう! (かおあげて)  
はなそう! (せん せいや) はなそう! (なかまに)  
はなそう! (かぞ く と)  
さあー は なー そう!

おしゃべり

- (2) はなそう! なやみにきくーのはくすりじゃない  
ひ と りきーり じゃーないよ  
はなそう! (だいじょうぶ) はなそう! (かおあげて)  
はなそう! (せんせいや) はなそう! (なかまに)  
はなそう! (かぞくと)  
さあー は なー そう!  
はなそう! (はじめよう) はなそう! (なんでもいい)  
はなそう! (せんせいや) はなそう! (なかまに)  
はなそう! (かぞくと)  
さあー は なー そうー!  
さあー は なー そうー! はなそう!

## 5.ほんとうの強さがほしい

### 前のセリフ

迷ったりしない。ゼツタイに薬物なんてやらない。  
ノーと言えるのはカッコイイ。本当に楽しいことが  
たくさんある。バスケやゲームやおしゃべり。  
薬物なんてやっている暇はない。あなたの友だちが薬物を  
使わないように。人生に何を求めている？  
成功すること？ 愛？ 健康でいること？  
たばこを吸ったり、お酒を飲んだって、何も得る物がない  
イントロが始まってから

シュートを決めるとか、いい成績を取るとか、  
本当の友だちを持つことに比べたらそれは、  
つまらないことだよ。答えを見つけるのは、簡単じゃない  
でも、これだけは確かだよ。たばこやお酒は、  
誰の悩みも解決してくれないってこと。

- (!) ゆうきをーくださいーつよさがーほしいんだ  
のばしたーこのてでーあなたをーさがす  
(ゆうきをー)トゥーミー(くださいー)フォーユー  
(つよさがー) そうーほしいよ(ほしいんだー)  
(のばしたー)トゥーミー(このてでー)フォーユー  
(あなたをー) さがしだすよー (さがすよー)  
solo  
いつかひとりでー あるきだーしても かぞくやー  
ともを いつも ころころにー  
(じぶんでー)トゥーミー (えらんだー) フォーユー  
(こたえがー)しんーじている(あるならー)  
(つかんだー)トゥーミー (そのてにー) フォーユー  
(つよさをー)つたえよう(つよさをー)しんじてー  
(じぶんを)しんじて -----

## 6.フォーエバーフリー

1 フォーエバーフリー あしたに いまちかうよー  
じぶんのー ためだとーきづいたーんだー

さあまえをー(まえを)むいてー(むいて)  
つよくー (つよく)なるうー(なるう)

ゆうきー (ゆうき)だしてー(だして)  
くじけはしないさー(くじけは しないさー)

い つ ---ま で も-----

翻訳 野津有司  
アレンジ 中戸川恵子

【喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌(DAREから6曲)を掲載しました。歌については、筑波大学野津有司研究室にお問い合わせ下さい。】

### (3) サイクリングゲームについて

#### ア ねらい

サイクリングゲームは、シンポジウムの後、会場の雰囲気少し堅くなるので、ゲームをして体を動かし、心身共にリラックスした状態に戻し、次のフロアでの話し合いの活性化をねらうものである。

また、喫煙・飲酒・薬物乱用の恐ろしさをゲームの中で感じとることができる。

#### イ サイクリングゲーム(せりふ、パントマイム付き)

自転車を漕いだことがありますか。自転車の車輪みたいに、手を胸の前で回しながら自転車を漕ぐ動作を試みましょう。では、ちょっと練習してみましょう。走ります。ブレーキをかけてみてください。急な坂道を自転車で登ってみましょう。

準備ok。さあ、これから室内サイクリングに出発しましょう。では、これから本を読みますので、お話にあわせて、自転車を漕いでください。今日は、とっても良いお天気で、絶好のサイクリング日和。そよ風にのってゆっくりペダルを漕いでいます。木々は緑で、鳥のさえずりも聞こえてきます。あちらこちらの景色を楽しみながら、笑ったり、歌ったり、みんなで楽しくペダルを漕いでいます。

あっ、犬が出てきました。ゆっくりブレーキをかけました。また、ゆったり自転車を漕いでいます。ゆっくり、ゆっくり漕ぎます。

あら、なんだか雲行きがあやしくなってきました。少し急いでペダルを漕ぎましょう。あともう少しです。雷が鳴ってきました。ごろごろ。雨も降り出してきました。道は滑りやすく、でこぼこです。大きな石です。「危ない。」キー。ブレーキをかけたのに雨で滑って自転車は止まりません。今度は、登り坂になってきました。ペダルを強く漕がなくてははいけません。足とお腹が痛くなってきました。雨はさらに強くなってきました。

ああ、やっと丘に着きました。でも、雨が降っているので休むこともできません。ペダルを漕ぎ続けなければなりません。

今度は下り坂です。

あああー。ペダルが勝手に走ってしまいます。速い。速い。ブレーキが利かない。速い。速い。止まらない。止まらない。止まらない。わあー。助けてー。わあー。ドッスン。自転車はぶつかって壊れてしまいました。今日のサイクリングは、これでおしまいです。すごい経験ですね。

はじめは、良くてだんだん悪くなって、ブレーキが利かなくなって、止まらなくなる。そして壊れてしまう。この話は、薬物や飲酒と全く同じです。薬物や飲酒には、ブレーキはなく、始めたら止まりません。アルコール中毒になった状態は丘の上にいる自転車と同じです。丘からの下り方は様々な方法があるけど、ブレーキがきかなくなってしまったことは、起こるべくして起こったことです。

薬物や飲酒の中毒になった人はブレーキをかけることが難しい状態にいます。しかし、私たちは、彼らの支えになることはできます。

## (4) フロアーでの話し合いについて

「喫煙・飲酒・薬物乱用問題について、どこに相談してよいかわからない?」「専門家の人に薬物のことで相談したいが専門家の人を知らない。」「いきなり警察には、相談しにくい。」など、喫煙・飲酒・薬物乱用問題において、専門的立場にある人に質問を投げかけた。そうすることで、専門家の方とコミュニケーションをとるためのきっかけになってくれるのではないかと考え、「フロアーでの話し合い」を企画した。

### ア「フロアーでの話し合い」を企画するときのポイント

会場図、別添参照(P88)

1グループに1名のリーダー(専門家)を配置

リーダーの選出について

- ・ 日頃から喫煙・飲酒・薬物乱用防止に携わっている方。
- ・ 職務において、子どもと関係が深い方を選出
- ・ この話し合いの後も相談等にのっていただく機会を作りたいため、なるべく地域内に住んでいられたり地域と関係がある方を選出。
- ・ リーダーの男女の割合を考慮した。
- ・ あらかじめ各リーダーの職務内容を知らせておく。
- ・ 1グループの参加者は、小学生、中学生、高校生合わせて13~16名くらいとした。大人に関しては、会場に参加した方がどのグループにも気軽に参加できるようにした。記録係を1名つけた。
- ・ 話し合いの時間は原則として40分だが希望者は、全体会終了後話し合える時間を用意した。
- ・ 柔らかなムードで気軽に話ができるように、南原小学校の歌、シンポジウム、サイクリングゲームなどの発表順に発表した。

### イ. グループのリーダーと話し合いの内容について

#### 1 薬剤師

- ・ 薬剤師の日頃の仕事内容について
- ・ たばこを喫煙する中・高校生の増えていく原因について
- ・ 合法ドラッグとは、どんなものか?

#### 2 警察官

- ・ 平塚市内の薬物の検挙者について
- ・ 薬物の売買について
- ・ 中学生や高校生の喫煙や薬物乱用は、どんな犯罪につながるのか?

#### 3 少年補導員

- ・ たばこや薬物から立ち直った人のこと
- ・ たばこをやめられない友達にしてあげられること
- ・ 補導をして気づいたこと

#### 4 薬物防止指導員

- ・ 薬物の常習者について
- ・ 習慣になってしまった人を更生させるためには

#### 5 平塚市健康課 保健師

- ・ 母親父親教室において、妊婦やその夫に対してたばこの害や胎児への影響について話をしている。
- ・ 原因の一つに喫煙が考えられるため、SIDS(乳児突然死症候群)予防のPR・地域

における子育て支援に協力。

#### 6 保健福祉事務所 保健師

- ・たばこの害について
- ・未成年に対する喫煙予防について

#### 7 青少年補導員

- ・青少年補導員の仕事内容について
- ・最近多い青少年の犯罪について

#### 8 青少年指導員

- ・指導する時にどんなことを考えて指導しているか。指導のポイントについて
- ・指導の様子について
- ・常習者について

#### 9 青少年相談室

- ・非行防止活動での行事で最も効果が高いと思われる内容について
- ・ヤングテレホンについて

#### 10 医師

- ・肺ガンについて
- ・薬物の子どもに与える影響について
- ・医師の苦勞について

#### まとめ

当日は、リーダーの方がいろいろな資料を用意されたり、複数で対応していただいたり、簡単な検査薬を使用したり、ユーモラスなところも交えながら具体的な話をたくさんしてもらった。児童生徒は、はじめは緊張気味だったが、薬物のことに関して活発に質問ができ薬物に対する見識が広がった。また、この話し合いを通じてふだん知っていてもなかなか話す機会がなかったり、コミュニケーションをとりにくい方々ともいろいろな面で話し合いができたことは、児童生徒、大人にとって大変意義があったと思う。この発表会のあと「気軽に声をかけられるようになりました。」「街であってもあいさつができるようになった。」など地域とのコミュニケーションづくりという面においては、効果が出てきた。このような機会を通じて人の輪づくりを少しずつでも進めていきたい。

#### (5) 成果と課題について

- ・喫煙・飲酒・薬物乱用の防止に関しては、家庭・地域・学校が連携していくことが大切でそのための集まり（情報交換）やコミュニケーションの場が必要である。
- ・学習発表会の中の「フロアでの話し合い」は、家庭・地域・学校が連携していくための一つのコミュニケーションの場を作った。話し合いの雰囲気は、いろいろな質問が飛び交ったり、笑いが出たり、リーダーからの話を真剣に聞いている児童、生徒、大人が多く活気に満ちていた。また、話し合いの後も残って話を続けている人も多かった。
- ・「フロアでの話し合い」のリーダーの職務内容や人柄がわかり学習発表会の後も街で見かけると親しみを込めて挨拶ができたなど今後も連携をとるのに大いに役立った。
- ・学習発表会の中の「喫煙・飲酒・薬物乱用防止の歌」（資料提供筑波大学野津有司先生）は、児童が喫煙、飲酒、薬物乱用防止を訴える歌を歌ったり主張をしたり身振りを交えて表現したり今までにない発表の方法であった。参加者には、児童の純粋な気持ちが十分に伝わり大人ができることを改めて考えるものになった。